

■ 2014年 裏磐梯の秋の様子と冬の予測 ■

秋が終わり、少しずつ冬を迎えています。ここで、「木の实」と「紅葉」に着目して秋を振り返るとともに、冬の予測をしてみました。

木の实は全国的に凶作だったようで、裏磐梯も例外ではありませんでした。ブナやウルシ、ヤマブドウなど様々な木の实が少なかったように思いました。

紅葉は標高が高い場所では例年より1週間ほど紅葉の進み具合が早かったものの、いつも通りに終わった印象です。ビジターセンター周辺では10月25日前後が見頃で、11月に入ると落葉が進みました。しかし、今年は紅葉前から葉っぱが少なかったように感じました。春から夏にかけて大発生した「マイマイガ」の幼虫がブナ科（ブナなど）やバラ科（ナナカマドなど）、カバノキ科（ハンノキなど）といった樹木の葉を食べたからかもしれません。



紅葉が終わり、裏磐梯は冬を迎えます。例年、ビジターセンター周辺では1m以上積雪があり、多い時には2m以上もの積雪が観測されます。気象庁のデータで今年と昨年の4～10月の降水量を比較すると、今年は200mm以上少なかったことが分かりました。1年間の合計降水量は大きく変わらないので、今年は雪が多くなるかもしれません。

これから本格的に冬を迎えます。今年はどんな冬になるのか楽しみです。

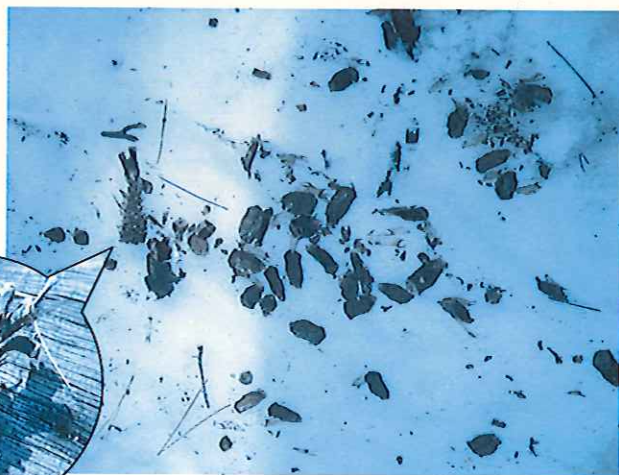
■ こんなの見なかった？ ■

裏磐梯でよく見かける不思議なもの…さて、なんででしょう？

雪の積もった探勝路を歩いていると、ばらばらと何かを散らかしたようなあとを見かけることがあります。よく見ると変な形のものも落ちています。1年を通して落ちていますが、雪のない季節には目につきにくく見落としてしまいます。

さて、これは何でしょう？

- ①野鳥たちの食事のあと
- ②ネズミが巣を作るために集めたあと
- ③人が落としていった弁当のエビフライ
- ④ニホンリスの食事のあと
- ⑤人が木の枝を踏んだあと



正解は④番です。これはニホンリスがマツボックリを食べたあとで、変な形のは通称「森のエビフライ」と呼ばれています。ニホンリスはマツボックリをかじって、かさを剥がしながら間にあるタネを食べます。他にも固いオニグルミの殻の合わせ目を歯で削って隙間を明け、その隙間に歯を入れてテコの原理で上手に二つに割って中身を食べます。

いつも同じ場所で食事をしているわけではないようですが、散策中、森のエビフライやきれいに割れたオニグルミの殻が落ちていたら周りをよ〜く見てみてください。木の上や根元のあたりをちょろちょろと走っている姿を見ることができるとも知れませんよ。

